

# モビリティ・デザインの実践

## Mobility design in practice



都市をより魅力的にし、日常生活を彩る。  
**Making cities more attractive  
 and enriching everyday life.**

■学生：23名（白岩元彦，宮内爽太，久保春奈，伊藤広登，浴多佑，渡邊瑛大，伊藤琢人，延原翠，中原船登，今井薫，中田結貴，大久保聡志，渡部耀，仙波亮太，村山拓己，土田倫晟，齊藤優，山口優生咲，高木希海，山口慧，峰龍太郎，辻慎太郎）

■担当教員：池島祥文

■連携・協力：LocaliST(株)，京急電鉄(株)，(株)アットヨコハマ，横浜市地域まちづくり課，藤沢市都市整備課

■活動地域：神奈川県横浜市(関内地区，横浜国立大学，京急富岡地区)，藤沢市

■サイト：<https://mobilitydesign.localinfo.jp/>

モビリティ・デザインの実践プロジェクトでは、まちの移動のしやすさや暮らしやすさに注目し、地域の皆様と共に、まちの魅力を高めるための実現方策を描くことを目標に活動しています。神奈川県内各地域で、カウンターパートナーの皆様と実社会の課題に取り組んでいます。

2023年度は、23名の学生が4つの班に分かれて活動をしました。

みらいの地図班では、横浜国立大学のデジタルキャンパスマップ「Y's navi (ワイズナビ)」の開発を行いました。

MaaS でまちづくり班では、若者が関内地区に親しめるようにするべく、関内の飲食店を紹介するマップの作成を行っています。

京急富岡班では、地域の共有空間である「おかまちリビング」や、地域イベント「おかまちひろば」での企画実施等を通じて、まちの魅力発信や地域内の交流促進を目指しています。

村岡新駅班では、約10年後に開業予定の村岡新駅周辺のまちの姿や人々の生活を描き出すために、地元の方々や小学生を対象にしたワークショップイベントを藤沢市とともに開催しました。

来年度はこれまでの活動を継続しつつ、連携先や地域の方々とのさらなる協力を図ります。魅力的な都市地域社会を目指して、より移動しやすく、移動が楽しくなる仕掛けや目的作りを通じ、魅力あるまちづくりを目指してまいります。

# データで捉える地域課題・地域経済プロジェクト2023

## Analyzing regional issues and economies based on data in



スポーツがもたらすものとは



オリンピックの招致などからもわかるように、スポーツが経済に与える影響は大きい

(写真) 公益財団法人 日本オリンピック委員会 より

研究対象である加藤神社について

- ・所在地：熊本県熊本市
- ・熊本城の近くに位置し加藤清正を奉っている。
- ・3が日の礼拝者は年平均40万人を超える。(熊本市人口：79.08万人)



当プロジェクトでは、各グループに分かれて、地域の諸アクターとの連携を行いながらプロジェクトを運営してきました。多様な研究が行われている中で、様々な成果が出ており、それらを中間報告会や最終報告会の中で共有し、それぞれ各グループに持ち帰って意見交換をしながら進めています。

池島グループでは、横浜におけるサーキュラーエコノミーをとりあげ、その「循環」状況に関する実態調査を進めるとともに、観光地である箱根町を対象に、その観光業に特化した産業構造の特殊性を他地域との比較から析出したり、また、自治体の歳出入構造について着目し、地域差からその課題を整理したりしています。既存データの分析にとどまらず、現地調査を通じてデータを創る取組みを進めています。

居城グループでは、地域経済について自分の興味関心と様々な事象を関連付けテーマを作成し、学生が実際にアンケートや統計を取り考察を深めています。研究例としては、サッカーチームのサポーターや地方空港、音楽フェスティバル、テレビ番組の経済効果研究があげられます。ゼミ内では学生間でアドバイスし合うことで新しい手法や考察が生まれており各々の研究がより深まっています。

今年度の研究によって、様々な角度から社会の現状や課題をみることができ、今後の研究の幅を広げることができました。来年度以降の研究では、今年度の研究で得られた結果や経験などを活用し、各グループで連携しながら取り組むことで、さらに良い研究につながると考えています。

## 経済学やデータの視点からみた社会の課題や現状

### Current state and issues of local societies form economics and data analysis perspectives

- 学生：31名
- 担当教員：池島祥文, 居城琢
- 連携・協力：横浜市政策局, 関口昌幸様
- 活動地域：横浜市, 神奈川県

## 転倒しない街共創ラボ Not Falling Down City Co-Creation Lab



**転ばない街を「技術」「対話」「運動」で現実に！  
何歳でも転倒知らずの世の中へ  
Making Not Falling Down City a Reality through  
Technology, Discussion, and Exercise!  
Toward a world without falls at any age!**

- 学生：5名（小川康太、樫本和奏、久保春奈、大谷紗慧、丹羽里歩子）
- 担当教員：島圭介、大沼雅也、藤岡泰寛、小林知恵ほかBSD研究拠点職員
- 連携・協力：BSD研究拠点
- 活動地域：常盤台ケアプラザ、左近山ケアプラザ
- サイト：<https://bsd.ynu.ac.jp/index.html>

転倒しない街共創ラボ「こらぼ」は高齢者の転倒リスク計測技術の社会実装を通して、誰もが転倒を恐れることなく健康に過ごせる街を実現することを目的として、2022年度に創設されたプロジェクトです。

2023年度は常盤台ケアプラザを主な活動場所として、近隣にお住まいの後期高齢者に対して、全2回の継続的改善プログラムを実施しました。1回目では転倒リスク測定技術に関する説明と体験、計測結果と普段の生活リズムに基づいた改善体操の提案を行い、2回目では改めての再計測と改善体操に対するディスカッションを行いました。

左近山地域ケアプラザでは保健活動推進員保活の方々を対象に、転倒リスク計測の体験会を実施しました。自分の担当している地域でどう活かそうか、不安な点は何か、様々な視点から貴重な意見を頂きました。

運動に対するインセンティブの検討として、地域通貨に関して藤岡先生を始め、神奈川県職員や大学教員と意見を交わし、地域通貨の良い点、悪い点、持続的な運用のための仕組みについて学びました。

今後は、まず2月初週に開催されるYOXO FESへ出展し、転倒リスク計測技術の基礎となる現象に関連したワークショップを実施します。幅広い年齢層の方々にも興味を持って体験してもらう他、転倒リスク計測技術に対する期待や不安の聞き取りを行い、来年度以降の活動へ活かしていく予定です。引き続き、転倒リスク計測技術が当たり前に使われ、誰もが転倒することなく健康に過ごせる社会の実現を目指して、市民の方々と対話を重ねて参ります。



# New-New Townプロジェクト

## Discover the new value of New Town



New-New Townプロジェクト 2023

私たちは、戦後に神奈川県と相模鉄道によって開発された相鉄線沿線の万騎が原エリアをフィールドに活動しています。横浜駅や都心へのアクセスがよく、かつては人気の郊外住宅地でしたが、高齢化が進んだことでかつての活気が失われつつあります。そこで、私たちはかつて「New Town (ニュータウン)」と呼ばれた活気のある郊外住宅地を、新たな形で取り戻し「New-New Town」とすることを目標に活動しています。

今年度は、万騎が原に住む・活躍する地域の皆さんを「知る」、「発信する」活動を行ってきました。まずは6月に、南万騎が原駅前にあるまちづくりの拠点「みなまきラボ」の会員となり、8月に地域の方と交流するイベント「みなまきカフェ」を開催しました。そして9月から約3ヶ月にわたって、みなまきラボ会員や万騎が原中央商店街、これまでお世話になった「まちの先生」の方などへのインタビューを行ってきました。その中で、普段なかなか交わる機会の少ない地域の方々を同時にインタビューする「オープンインタビュー」企画も3回実施し、「みなまきピクニック」や「みなまき一箱古本市」などまちのイベント時の突撃インタビューも含め、合計20回を超えるインタビューを行ってきました。最終的に、私たちは万騎が原で活躍する方々を「まきがはら一ずかん」と称し、皆さんの魅力を発信する冊子&ウェブサイト「まきがはら一ずかん」を作成しました。

今年度の地域の方々を「知る」「発信する」活動によって、これまで潜んでいた地域の「ひと」の魅力が可視化され、ニュータウンに住む地元住民も、外からニュータウンに関わる人も地域に対する新たな発見や愛着につながるのではないかと考えました。さらに今後は、これまで培ってきた地域の方々とのつながりを大切に、ニュータウンの新たな賑わいにつながる活動や企画も展開していく予定です。

### 万騎が原で活躍する方々「まきがはら一ずかん」を冊子&ウェブサイトで発信

### Express the charm of “Makigahara-ers”, players of Makigahara area through booklet and website

- 学生：12名（赤坂晃太郎, 出射みらい, 井戸元奏磨, 影山萌花, 齋藤菜月, 水城健太, 林澄漢, 坂井雅姫, 佐山千尋, 藤田美涼, 森田彩日, 油井奎音）
- 担当教員：野原卓
- 連携・協力：万騎が原中央商店会, みなまきラボ運営委員会, (株)オンデザインパートナーズ, 横浜市・相鉄グループ(相鉄いずみ野沿線 次代のまちづくり)
- 活動地域：相鉄線二俣川駅～相鉄いずみ野線南万騎が原駅周辺エリア
- サイト：<https://ynunewnewtown.wixsite.com/website>  
Instagram: @ynu\_newnewtown X: @ynu\_newnewtown

## まちに開いた交流の場のデザインーYOKOCO- Designing a place for exchange open to the community



1.6.7. キャンドルナイト  
2. ランプシェードワークショップ  
3. 和菓子&茶道&体験会  
4. 出張DIY完成写真  
5. 野毛山新聞

### 住宅地の価値を上げる

### Increasing the value of residential property

- 学生：16名（山田伸希, 石津心之輔, 今野偉吹, 室本剛志, 音喜多頭大, 新井希緒, 伊藤空翔, 大島健太, 小見壮也, 土山実希, 西山日々希, 他）
- 担当教員：江口亨
- 連携・協力：NPO法人Connection of the Children
- 活動地域：野毛山, 東ヶ丘
- サイト：<https://www.coc-i.org/>

YOKOCOは野毛山公園の裏の住宅地に、二軒長屋を改修して2Fをシェアハウス、1Fを地域に開いた場にした「casaco」で活動しています。その場の使い方の提案や、運営者の了解がえられれば提案内容を実行に移し、エリアの価値向上を目指しています。

地域に開いた場をつくるため、完全ボランティアでもなく、「稼ぐ」ビジネスを立案するのでもなく、その中間の方法を模索しています。全国に広まりつつあるソーシャルビジネスの方法論の一端を、実践を通じて学ぶことを目標としています。

昨年度からメンバーの1人が管理人として住み、より密接にカサコの活動に携わり、DIYや毎月出版している野毛山新聞の編集、その他イベントの運営などをしてきました。DIYでは、縁側や本棚を作った経験を元に、casacoから飛び出て近所の方のDIYを募集し、夏に完成しました。野毛山新聞では一年生を中心に野毛エリアをリサーチし、近所の方も知らなかった野毛山を発信することを目標に発行しました。イベントとしては夏休みに実施した夏祭りやランプシェードワークショップ、12月に行われたキャンドルナイトの企画、運営に携わり、多くの地域の方々に参加していただき、地域交流拠点としての存在価値を改めて実感しました。

今後は、現在進行中の出張DIYの施工を3月に行う予定です。また今年度は、YOKOCOがCASACOにより密に関わり始めた最初の年でした。そのため、それぞれの活動が手探り状態で課題も多く見受けられました。来年度はこの課題をYOKOCO内で議論し合い、ただ伝統を継承したり不足を補ったりするのではなく、YOKOCOとしてCASACOに問題提起、提案をしていけたらと考えています。

## ハマの屋台プロジェクト YNU Wagon Project



### 移動式屋台で人とまちをつなぐ Connecting People and the Community with Mobile Wagon

■学生：30名（三浦萌夕，奥村真妃，尾崎龍樹，梶遼太郎，齋藤佳奈，平原裕大，大木諒音，佐藤那津，田中もも，安宅建人，榎本和奏，内村姫那，川口南，竹永怜生，前田菜々子，磯崎碧，草深篤志，小藪有紗，後藤理紗，酒井大輝，中野洸，佐藤美宇，高尾諭良，土田英尚，西村心，船田果鈴，池田萌夏，石井海己，坂本早翼，伊藤悠真）

■担当教員：野原卓

■連携・協力：常盤台地区連合町内会，住好自治会，Circular Yokohama (qlaytion gallery)，(一社)横浜青年会議所

■活動地域：主に常盤台地区、関内・関外エリア

■サイト：[http://www.instagram.com/hama\\_yataipj/](http://www.instagram.com/hama_yataipj/)

ハマの屋台プロジェクトでは、まちの賑わいを生み出すツール「ほどわごん」の提案以来、活動地域の需要や状況に合わせた移動式屋台の製作と運用を行ってきました。

今年度は常盤台地区と関内・関外地区の活動を継続しつつ、他地域にも活動を展開してきました。これまでは、常盤台では「ほどわごん3号機」、関内・関外では「かないわごん」と地域で屋台を使い分けて活動してきましたが、それぞれの強みが異なることから、地域ではなく場面に応じて屋台を使い分ける・併用するという新たな活動スタイルにも挑戦しました。コンパクトなほどわごんは物の販売用、ユニークな形のかないわごんは滞留空間として使ってもらえることが多く、屋台を通じて人々の豊かな活動を興すヒントが得られました。

常盤台では、納涼盆踊りやワイワイ文化祭りへの出展を通じて、自治会の皆様との連携を深めつつ、子供たちにも楽しんでもらいました。ミニゲームやマッピングワークショップを同時に実施することで、学生と地域住民の交流やまちの魅力の再発見にも繋がりました。また、学内ではアグリッジプロジェクトやお弁同販売とのコラボ企画を実施しました。関内では、さくらテラスへの出展により関内らしいクリエイティブな体験を創出しました。他団体の可動式空間とともに場づくりをすることで、相互作用の中で生まれるかないわごんの価値を発見できました。2月にはYOXO FESTIVALに出展予定で、健康に過ごせる広場の在り方について、屋台を活用しながらワークショップを開催します。他地域では、根岸公園のハロウィンイベントへの出展や星天qplayへの常設展示により、賑わいや滞留空間の創出に貢献しました。

今後は、常盤台では、ほどわごん4号機の製作を見据え、フィールド調査や住民の皆様との意見交換を進めます。関内では、かないわごんをより日常的に活用してもらうための施策を検討していきます。

## サコロボ Sacolabo



### 国大生と左近山のコラボでミライをデザインします。 We design the future in collaboration with Sakonyama community.

■学生：24名（落合佑飛，中村優真，平田雄基，年盛文也，寺澤慶，佐藤咲希，富田涼太，長岡稜太，笹森遥，南村紬，寺田優衣，竹中美裕，青柳篤広，澤口鈴穂，佐藤信哉，渡邊まるり，山本莞太，高木温，安井圭，塩野雄史，岡宮愛，樫田航太，高橋夢菜，奥野史歩，松原稜）

■担当教員：藤岡泰寛

■連携・協力：NPO法人オールさこんやま(連携)，左近山ショッピングセンター・ケアプラザ(企画アドバイス等)

■活動地域：左近山団地(横浜市旭区)

■SNS：X(旧Twitter) ID:@sacolabo\_danchi

Instagram ID:@sacolabo.danchi2022\_ facebook ID:@sacolabo

相鉄線二俣川駅からバスで約15分の場所に広がる、「左近山団地」。商店街のお祭りや、小学生向けの地域イベントが毎月開催されるなど、地域活動の活発さが魅力な一方、47%にもものぼる高齢化率などといった課題も抱えています。そんな左近山の地域活動をさらに盛り上げつつ、教育・福祉・防災などに関するイベントを企画し、小さいお子さんから高齢者の方まで、幅広い世代の住民の方々と「コラボ」しながら団地の魅力向上に取り組んでいます。

今年度は、団地内部に新たなエンターテインメントを生み出すべく、映画の自主上映を行う「団地映画祭」や、地域のお祭りで手作りの窯でピザを焼き、その窯を非常時の炊き出しにも役立てられるよう訓練も行う「ピザ窯ワークショップ」、小・中学生と交流しつつ、勉強などさまざまな相談に乗り団地内での教育環境の充実を図る「さくら教室」などを行いました。また、地域主催の小学生向けイベント「日曜ほっと」にも参画し、ハロウィンやクリスマスなど季節に応じた企画を実施しました。

団地に実際に居住して活動している学生もおり、外から左近山に通っている学生とともに内外両方の視点から地域課題を見つけ、アイデアを生み出し、実際の活動に活かしています。また似顔絵や移動式サウナの設計など、「得意」としていることを左近山にメンバーが自発的に持ち込み、地域に還元しているのも特徴です。

地域活動の活発さや、豊かな屋外空間といった左近山の魅力を活かしたイベントを開催し、団地内外のさらに多くの人が地域の魅力に気づき、愛着を抱くようになることを目指しています。また、地域の方々と交流しながらイベントを楽しむことで、学生自身も左近山を「帰ってきたい居場所」と思えるようになるような活動を心がけ、左近山団地の継続的な発展に貢献していきます。

## 南米農村部での学びを生かした横浜「共生」プロジェクト Yokohama “kyousei” project



**参加人数・開催頻度ともに去年より増加  
笹山団地での子どもの居場所作り  
Both the number of participants and  
frequency of events increased from last year,  
creating a “place” for children in Sasayama Danchi.**

- 学生：14名（本藤理子,杉江つくし,入江ひなた,片桐綾乃,根岸佳奈,奥山琴音,湯本莉衣,北村あすか,森結希乃,重村ななは,中谷笑理,中島ちなつ,橋本真,橋口奈奈緒）
- 担当教員：藤掛洋子
- 連携・協力：認定特活ミタイ・ミタクニヤイ子ども基金,ベネッセ子ども基金,かなとも基金,橋ライオンズクラブ,横浜保土ヶ谷ライオンズクラブ,横浜市保土ヶ谷区社会福祉協議会,県営笹山団地自治会,笹山地区社会福祉協議会,神奈川県,渡邊敏彦様,日本ケンタッキー・フライド・チキン株式会社,株式会社ジャンボリア,日本ウイナー株式会社,保土ヶ谷区子ども福祉支援課,笹山保育園,上菅田地域プラザ
- 活動地域：神奈川県営住宅「笹山団地」
- サイト：Facebookページ <https://www.facebook.com/ynu.mitaimitakunai>

本活動は、2020年から認定NPO法人ミタイ・ミタクニヤイ子ども基金（以下、ミタイ基金）と横浜国立大学の地域課題実習、上菅田地域の各アクターと連携して実施しています。

活動目的は、複数のアクターが緩やかに連携することから、地域の子どもたちが集まる空間を作り、不登校や外国にルーツを持つ子どもたちも含め、子どもたちがありのままの自分になれる場所を提供することです。

笹山団地102号室を毎週土曜日10-12時で開放し、笹山団地や近隣に住む子どもたち（不登校や外国にルーツを持つ子どもも含む）に対し、

- ①横浜国立大学学生他による食事（お弁当や軽食）の提供（月1回）
- ②大学生ボランティアによる宿題や自主学習教材などの子どもたちの希望する学習支援
- ③勉強以外の、遊びや自分達のやりたいことを行うことの支援
- ④大学生スタッフの大学での学びを生かした、多文化共生や季節のイベントのイベント・ワークショップの開催

を行っています。以上を通し、学年を問わず地域の子どもたちを受け入れています。

現在、5~10人の子どもが毎週参加していますが、団地の子どもや外国にルーツを持つ子どもの継続参加には課題が残っています。言語や宗教による食文化の違い、保護者の方の理解などの要因を探っている段階です。調査を踏まえ、来年度は子どもが団地内からも継続的に通ってもらえるような場所にしていきたいです。また、多文化共生について伝える機会を増やして、すべての子どもたちが豊かで笑顔あふれる生活を送れるよう活動していきます。





# コットンおとなりさんプロジェクト Cotton Otonari-san Project



現在、都心部への人口集中を背景に、マンションの増加が目立っています。また、高齢社会となっている日本では、住民間の助け合いが以前より一層重要になってきました。そこで本プロジェクトは、横浜市神奈川区にある「コットンハーバー地区」というタワーマンション群で、世代を超えて住民がつながることのできるコミュニティを作ることがを目的に活動しています。

私たちは、2023年度、地域団体CCT(Cotton Community Town)や自治会、神奈川大学の学生などと協力しながら、主に5つの活動を行いました。一つ目は、地域交流や居場所の創成を目的としたCCTパークや子どもの自由な遊びを促すプレイパークなどの地域イベントの運営協力です。二つ目は、団体とその活動の知名度向上を目的とした公式LINEの運営やチラシ作成などの広報活動です。三つ目は、新たな地域ネットワーク形成や知名度向上のためのフリーマーケットの企画及び運営です。四つ目は、有事の際に備えて地域の特性を踏まえた防災情報を発信する動画の作成です。最後に、五つ目は、地方を元気にするアイデアを広く募集している「地方創生デザインアワード」への参加です。

2023年度は、前年度から継続して地域イベントの運営協力や広報活動を進めたことに加えて、10月に開催した第二回フリーマーケットでは参加者が約400人にもものぼり、より多くの方に活動を知ってもらうことができました。これを受け、地方創生デザインアワードでは、約一年間のフリーマーケットの準備による地域のつながりづくりを主軸に活動の目的や今後の展望をアピールしました。2024年度は、これまでの活動に加え、フリーマーケットの企画や準備のなかで、地域に住む方々のつながりをさらに増やしていくことに注力していく予定です。

## 高層マンション群の住民が おとなりさんと繋がることのできる居場所を To create a place where residents of high-rise apartments can connect with their neighbors

- 学生：6名（美藤優斗, 安慶萌花, 入山璃暖, 佐々木遼太, 佐藤美優, 村山優々）
- 担当教員：伊集守直, 関英佐子
- 連携・協力：Cotton Community Town (CCT), 各自治会
- 活動地域：コットンハーバー地区（横浜市神奈川区）
- サイト：[https://cottonct.org/about\\_cotton\\_otonari\\_pjt/](https://cottonct.org/about_cotton_otonari_pjt/)





## はまみらいプロジェクト Hamamirai Project



### みらいへの架け橋を創る、ハマのオールラウンダー We are the all-rounder to create the bridge to the future of YOKOHAMA

■学生：36名（石和京華，天野雄浩，飯田理紗子，伊藤美輝，河野ひなた，権頭望夢，明事巧馬，濱田幸大，安宅建人，久保智裕，家護谷駿，藤田光，松田大生，加藤汐夏，齊藤優，眞田季依，藩楓由香，大野倫，延原翠，室田美玲，石坪秀一，鈴木美空，竹島優姫，恒住彩和子，西村終哉，石井遥大，伊藤理名子，中山瑞規，青木遥香，宇野滉真，小林蒼生，坂元夏希，高田祥英，波平恵采，平井優作，高橋寿志）

■担当教員：吉田聡，野原卓，稲垣景子

■連携・協力：UDC-SEA，横浜市，横浜みなと博物館，Yocco18，常盤台コミュニティーハウス，幸海ヒーローズ，株式会社ELMA

■活動地域：横浜海沿い地域

■サイト：<https://hamamirai.localinfo.jp>，[https://twitter.com/hamamirai\\_bosai](https://twitter.com/hamamirai_bosai)  
[https://twitter.com/yoko\\_hamamirai](https://twitter.com/yoko_hamamirai)

はまみらいプロジェクトは、海洋都市横浜の街づくりに関するUDC-SEAの活動理念を元に創設されました。横浜を学生の立場からより良い都市にすることを目的とし、海沿い地域をフィールドに、3つのチームに分かれ、魅力の発信・課題の改善に取り組んでいます。

まちあるきチームでは、外部団体の方とも連携して金沢区と港北・鶴見区のまちあるきを行いました。道中では、周囲の建物や地形について話しながら、一日を通して地域の新しい魅力を発見することができました。また、昨年度作成したうみはまっぷすごろくを、多くの方に体験してもらう機会も作る事ができました。今後も、自分たちの目でまちを見つめることができる活動を行っていく予定です。

防災チームでは、防災KOKUDAIに向けて防災人生すごろくを作成しました。止まるマスによって様々な災害が起き、それらをどんな防災グッズを用いて対処するかを考えるものです。ゲーム形式なので小さい子どもたちでも、楽しみながら防災の知識を深められます。防災KOKUDAI後も市役所や地域のコミュニティハウスなどで実際に遊んでもらい、ゲームの改良を行ってきました。今後はこのゲームを小学校の授業に取り入れるなど活動を広げていく予定です。

ブルーカーボンチームでは金沢区でコンブを養殖を通して活動されている方々と協力し、近年地球温暖化対策として注目されているブルーカーボンの周知するために様々な活動を行いました。常盤祭では学生がパッケージデザインを手がけたコンブを肥料にしたお茶やコンブが入ったバスソルトを販売しました。今後はコンブの水揚げイベントなどに参加し活動の周知を図っていく予定です。

今後はチーム活動や個人の記事作成などで得られた経験や知識、構築された人々とのつながりを生かして、メンバーのやりたいことを活動に取り入れ、横浜の街をよりよい街にできるよう活動していきます。